

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[32]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[9] 年、階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[32]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[14]年、階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[30]歳、勤続年数[11]年、現場経験年数[7]年、階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	当事者 D 年齢：36 歳、勤続：14 年、経験：11 年、活動：頻繁、消防司令補、隊員 当事者 E 年齢：45 歳、勤続：23 年、経験：3 年、活動：頻繁、消防司令補、隊長（安全管理者）

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 B	訓練塔にて訓練を開始し、要救助者となる当事者 A に座席結索を実施し、確保ロープを装着する。	
経過 2	当事者 A	確保ロープを装着された後、訓練により救出されるため、約 1 m 下の足場へ飛び降りた。	当事者 A が飛び降りた際、右足首を負傷
経過 3	当事者 B、C	負傷した A を足場から訓練塔へ救護する。	当事者 A は自力歩行不能
経過 4	当事者 B、C、D、E	負傷した A を訓練塔から地上へ搬送する。	
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

消防救助技術指導会に伴う訓練ということで、タイムアップばかりに気を取られていた事実をふまえ、何事にも事故はつきものであり、的確（安全第一）な行動がなければ、迅速な行動も伴わないことを再認識していく必要がある。

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--

災害発生状況図

災害発生状況は下図のとおりです。

